

札幌市教員育成指標を踏まえた養護実習試案（１）

Practical Training Plan for student Yogo teacher based on
the Sapporo City Teacher development index

今 野 洋 子
IMANO Yoko

半 澤 郁 子
HANZAWA Ikuko

札幌市教員育成指標を踏まえた養護実習試案（1）

Practical Training Plan for student Yogo teacher based on
the Sapporo City Teacher development index

今 野 洋 子	半 澤 郁 子 ^{*1)}
IMANO Yoko	HANZAWA Ikuko

キーワード：札幌市教員育成指標，養護実習試案，保健教育，保健管理，保健組織活動

要旨

本研究は，教育振興のために導入された教員育成指標を活用し，養護実習試案を検討することを目的とした。学校保健三領域の用語を整理するとともに，大学での初期の学習目標から，教員育成指標における養成段階とをつなぐような養護実習試案を検討した。

今後の課題は，学校保健の推進とマネジメントを網羅した養護実習試案を完成させることである。

Abstract

The purpose of this study was to examine the practical training plan for student Yogo teacher using the Teacher development index introduced for the promotion of education. In addition to organizing the words and phrases in the three areas of school health, we examined the practical training trial plan that links the training stage in the Teacher development index from the initial learning objectives at the university.

The future task is to complete a Yogo teacher's practical training tentative plan that covers the promotion and management of school health.

1. はじめに

教員育成指標とは，教育のスタンダード化を基盤としたものであり，2006年の教育基本法の

* 1) 札幌市教育委員会

改定によって、第17条に「教育振興計画を定めること¹⁾」が規定されたことが始まりといえる。合わせて、同第9条で、「絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない²⁾。」と規定され、教育振興のための計画と実施結果の評価として、PDCAサイクルが制度的に導入された。さらに、教育公務員特例法等の一部を改正する法律³⁾が2016年に成立し、教員研修計画の策定が義務付けられ、校長及び教員の資質の向上について協議を行う協議会の設置が義務づけられることになった。

教師の資質能力向上に関する参考資料⁴⁾によると2018年8月1日を基準日として、前年度中に全国・全政令都市において指標および研究計画の策定がなされたことが明らかとなっている（図1参照）。しかし、研修計画の策定以外で、指標を活用することを奨励している例は少なく（図2参照）、教員指標の利用と活用については課題が大きいといえる。

このような課題には、教育委員会と教員養成を行う大学の双方が、長期的な視点から教員養成の研究を協同して行うことが有益と考えられる。

なお、教諭に関する指標は2017年度中にすべての都道府県・政令都市において策定されたが、養護教諭の「指標」に関しては47都道府県・20政令都市中54と、8割であった（図3参照）。札幌市教員育成指標として養護教諭の指標および研修計画が策定されたのは、2018年である。

養護実習とは、養護教諭免許状取得のために、学校教育の場で養護教諭としての実践的能力を高めるために行う実習であり、教育職員免許法で定められている教職科目の一つである⁵⁾。

養護実習は、養護教諭としての資質能力の育成において、養護教諭養成教育の中核に位置するものである。大学で学んだ知識や技術について、実際の教育の場で体験的に学び、養護教諭としての実践的基本的な資質能力を身に付ける貴重な機会である。また、養護教諭専修免許状および一種免許状では、養護実習は「事前・事後指導」を含めて5単位であり、教職科目の必

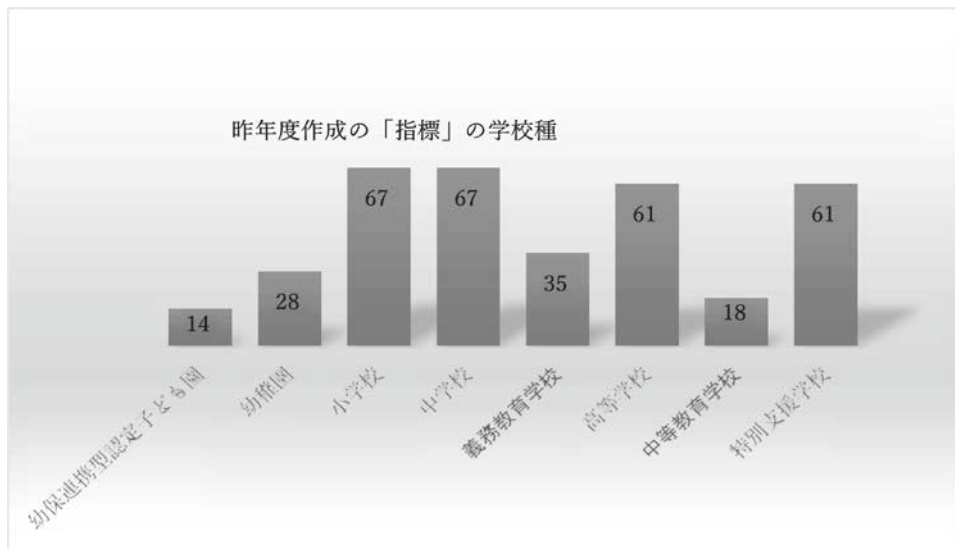


図1 道府県・政令市において2017年度までに指標を策定済の学校種
 (出典 文部科学省：教師の資質能力に関する参考資料，2018，p.25,)

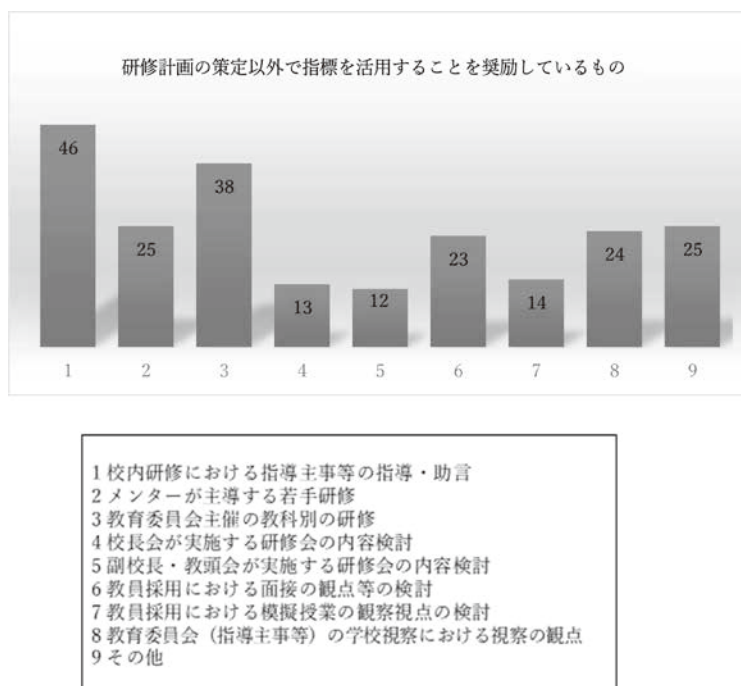


図2 指標の活用に関する奨励

（出典：文部科学省：教師の資質能力に関する参考資料，2018，p.25,）

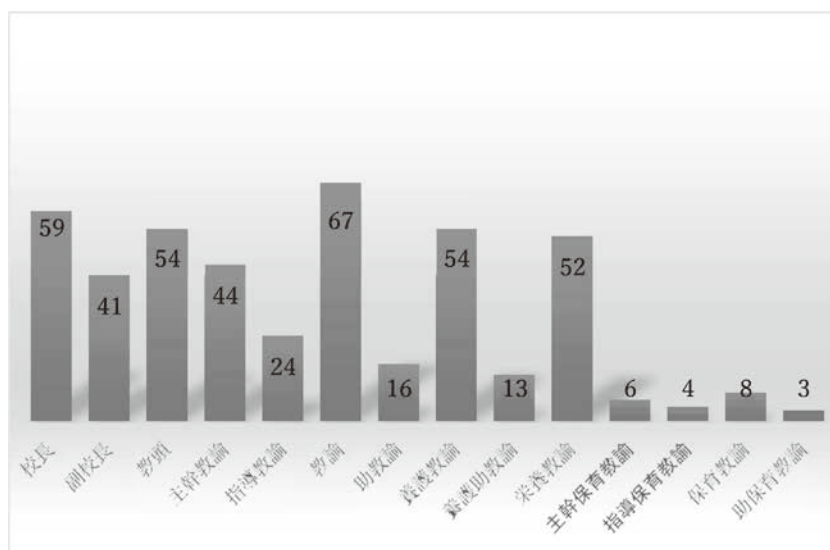


図3 作成された「指標」の職種

（出典 文部科学省：教師の資質能力に関する参考資料，2018，p.25,）

要単位21単位の約四分の一を占めている⁶⁾ ことから、その重要性がうかがえる。

養護実習は大学での事前指導と実際の学校における指導、さらに大学に戻ってからの指導が

一体となったものである。事前指導では、当然、養護実習の目的を明確にする必要があるが、さらに踏み込んで育成指標を視野にのけての養護実習の目的を明確にするべきであると考えた。

本学では短期大学での養護教諭養成時から札幌市内での養護実習を依頼し、現在も大学三年次の養護実習は札幌市内小学校で行っている。そこで、本稿において、大学での学習内容から育成指標をもとに教員としてのスタートラインまでを見通した養護実習試案を検討することとした。

2. 方法

「平成31年度札幌市教員育成指標【養護教諭編】」（以下、「札幌市教員育成指標【養護教諭編】」と表す）の養成段階（札幌市が求める教員人生スタート時の姿）を新任養護教諭の姿ととらえ、養護実習の基礎となる科目である「養護実践学Ⅰ」「養護実践学Ⅱ」で教科書として使用している「新訂 養護概説」⁷⁾等の学習目標を活用して初期の指標を設定し、その間をつなぐような「養護実習試案」を提案・検討した。

ただし、本研究においては、「札幌市教員育成指標【養護教諭編】」の養成段階のうち、学校保健の三領域である「保健教育」「保健管理」「保健組織活動」に着目し、改めて使用される語句の定義を確認し、「養護実習試案」を提案するものとした。

なお、養護実習試案の妥当性については、現職養護教諭4名・養護教諭養成大学教員1名に、専門的な見地からの検討を依頼した。

大学での学習目標から、「札幌市教員育成指標【養護教諭編】」の養成段階までを見通した養護実習試案に関しては、本稿の最後に掲載した。

3. 保健教育における養護実習試案の提案

（1）保健教育の用語の整理

学校における保健教育とは、小学校体育科保健領域、中学校保健体育科保健分野、高等学校保健体育科科目保健、ならびに生活科、理科、技術・家庭科、社会科、道徳などの関連教科、総合的な学習の時間、特別活動、保健室における個別指導や日常の学校生活での指導において行われる健康安全に関する教育のことである⁸⁾。

学校における保健教育は、「保健科教育」とも呼ばれる「小学校体育科保健領域、中学校保健体育科保健分野、高等学校保健体育科科目」で行われるものが中心であり、その内容等については学習指導要領に示されている。

本学学生の実習校となる校種は小学校であることから、小学校の保健教育に目を向けると、2017年告示の「小学校学習指導要領解説【体育編】」⁹⁾において第3学年・第4学年では「健

康な生活」及び「身体の発育発達」の知識と思考力、判断力、表現力等の指導内容が構成されている。第5学年・第6学年では「心の健康」「けがの防止」の知識及び技能と「病気の予防」の知識、それぞれの思考力、判断力、表現力の指導内容から構成されている。第3学年・第4学年の2学年間で8単位時間程度、第5学年・第6学年の2学年間で16単位時間程度とすることが示されている。

また、保健教育は生活科、理科、技術・家庭科、社会科、道徳などの関連教科や総合の時間でも扱われる。さらに、保健教育は、教科のみならず、学級活動・学校行事・児童会活動・クラブ活動等の特別活動、保健室での個別保健指導や日常の学校生活における指導でも行われる。

なお、従来の学校保健領域では、保健教育は教科等を中心とした「保健学習」と、特別活動等における「保健指導」に分けられていたが、2018年12月21日の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策について」¹⁰⁾では、「保健学習」「保健指導」の用語を用いた分類は使用せず、教職員や国民が理解できる教科などの名称で説明することとされ、「保健教育」のみで表されることとなった（図4参照）。

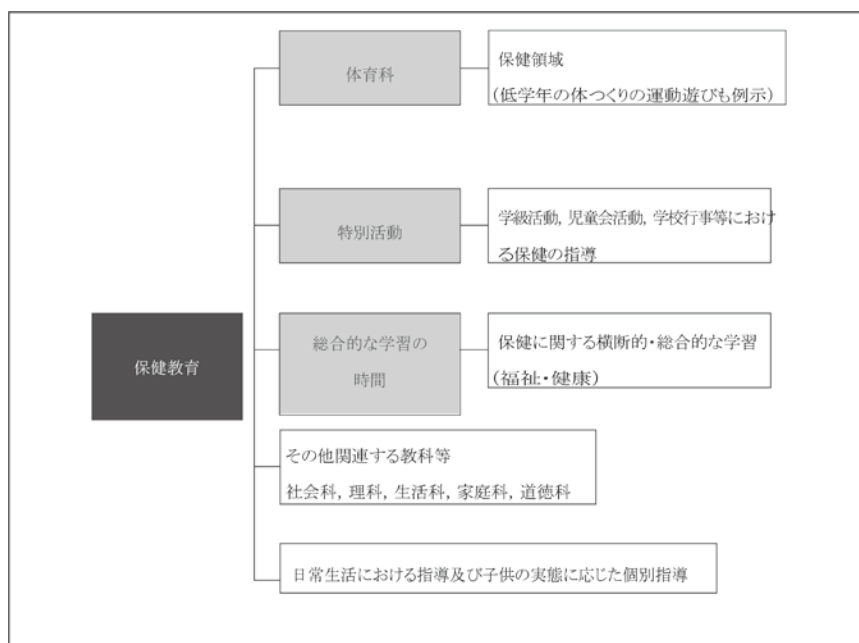


図4 保健教育の体系

（出典 文部科学省：改訂「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き，2019，p.10）

（2）保健教育の養成段階での指標と大学での講義の目標

保健教育に関し、「札幌市教員育成指標【養護教諭編】」における養成段階の指標と大学での学習目標とを並べると以下ようになる。

【養成段階】

学習指導要領を理解し、養護教諭の専門性を生かした保健教育を実践しようとしている。

【大学での学習目標】

- ①学習指導要領を理解した上で、発達段階に即した保健教育について考えることができる。
- ②保健などの教科の内容を踏まえ、養護教諭の職務の特性を生かした授業を構想し、学習指導案を作成できる。
- ③児童生徒の実態に即した特別活動等における保健教育の学習指導案を作成できる。

（3）保健教育の養護実習試案

札幌市教員育成指標における養成段階と大学での講義の目標をつなぎ、学校という場での実習を踏まえ、次のように考えた。

【養護実習試案】

- ①学習指導要領を理解した上で、実習校の児童の健康課題を踏まえ、発達段階に即した保健教育について考えることができる。
- ②教科等との関連を考え、特別活動における保健教育を実践することができる。
- ③養護教諭の専門性を生かし、日常の保健教育を実践することができる。

4. 保健管理における養護実習試案の提案

（1）保健管理の用語の整理

学校における保健管理とは、心身の発達途上にある児童生徒を対象としていることから、学校経営と関連を持たせながら、教育目標の達成を意図して行う心身の管理、生活の管理、学校環境の管理等の保健活動である¹¹⁾。

学校における保健管理の目的は、学校保健安全法第1条に「児童生徒等及び職員の健康の保持増進を図るため学校における保健管理に関して必要な事項を定めるとともに学校における教育活動が安全な環境において実施され、児童生徒等の安全の確保が図られるよう学校における安全管理に関し必要な事項を定め、もって学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資することを目的とする¹²⁾」と示されている。保健管理は学校教育の目的、目標を有効に達成するための手段、つまり、学校経営の条件系列に含まれる重要な機能として大きな意味を持つものと言える¹³⁾。

保健管理は、保健教育・保健組織活動とともに学校保健の重要な領域を成しており、保健管理・保健教育が児童生徒の健康の保持増進に十分寄与するように保健組織活動の効果的な活用を図り、教育目標を達成するために行われなければならない。

保健管理のプロセスは、①健康問題の発見、②発見された問題の教育的・医学的措置、③健康の保持増進である。保健管理の視点は学校保健安全法に明示されており、人間の生活行動を含めた人的管理（対人管理：心身の管理・生活の管理）、施設や環境等を対象とした物的管理（対物管理）、安全管理（防災・危機管理）などに分けて教育的間見地から実施するものである¹⁴⁾。

学校保健活動は、全教職員が役割分担しながら相互に連携して行われるものであるが、養護

教諭は職務の特質から、学校保健活動を牽引していく立場にある。

保健管理は以下のように分けられる¹⁵⁾。

①対人管理

心身の管理：健康観察・健康診断(保健調査)・健康相談・要観察者の継続観察および指導・
疾病予防・感染症予防・救急処置（応急手当等）

生活の管理：健康生活の実践状況の把握及び規正

学校生活の管理；健康に適した日課表，時間割の編成

休憩時間中の遊びや運動

学校生活の情緒的雰囲気

②対物管理

学校環境の管理：学校環境の衛生的管理；学校環境衛生検査（定期，日常）の実態とその
事後措置

施設設備の衛生管理

学校環境の美化等情操面への配慮；校舎内外の美化

学校環境の緑化

動物の飼育，植物の栽培

（２）保健管理の養成段階での指標と大学での学習目標

保健管理に関し、「札幌市教員育成指標【養護教諭編】」における養成段階の指標と大学での講義の目標とを並べると以下ようになる。なお、健康相談に関しては、札幌市教員育成指標では「健康相談・保健指導/生徒指導」という別の枠組みで構成しており、養護実習試案についても「札幌市教員育成指標【養護教諭編】」と同様の枠組みで構成する。しかし、第一報である本研究では、保健教育・保健管理・保健組織活動の三領域の枠組みで構成することを目的としたことから、完成時の養護実習試案を念頭におき、本稿では保健管理の中の健康相談について触れないこととした。また、本来であれば、保健室対応として救急処置を行う際には、単に処置にとどまらず、児童生徒への保健指導を行うものであるが、前述の健康相談と同様の理由で、本稿では記述しないこととした。

【養成段階】

学校保健安全法を理解し、子どもの実態把握の必要性を認識し、実践しようとしている。

【大学での学習目標】

- ①保健管理の構造と内容を理解する。
- ②学校保健安全法を理解し、保健管理のプロセスを理解し、説明できる。
- ③健康課題把握のための学校保健情報の種類・意義・進め方を理解し、説明できる。
- ④健康観察の方法と進め方を理解し、説明できる。
- ⑤学校における救急処置活動のプロセスと進め方を説明できる。

- ⑥救急体制の整備の必要性と課題を説明できる。
- ⑦健康診断の根拠および計画について理解する。
- ⑧健康診断の実践の工夫と留意点について理解し、説明できる。
- ⑨健康診断の結果の活用について理解する。
- ⑩感染症対策に関する法的根拠を理解する。
- ⑪感染症予防の基本を理解する。
- ⑫学校環境衛生の意義を理解する。
- ⑬学校環境衛生基準の法的根拠を理解する。
- ⑭学校環境衛生の日常的点検の内容および方法について理解し、説明できる。

（3）保健管理の養護実習試案

札幌市教員育成指標における養成段階と大学での講義の目標をつなぎ、臨地実習である養護実習を踏まえ、次のように考えた。

【養護実習試案】

- ①保健管理の法的根拠を理解した上で、実習校の児童の健康課題を例示することができる。
- ②健康観察の必要性を理解し、実習校において実践することができる。
- ③実習校の救急体制を理解し、児童の発達段階等に即した適切な応急手当ができる。
- ④実習校の健康診断の工夫と留意点を踏まえ、実践することができる。
- ⑤感染症予防の基本に従い、感染症予防と対応に努める。
- ⑥学校環境衛生の日常点検を実践することができる。

5. 保健組織活動（関係機関等との連携）における養護実習試案の提案

（1）保健組織活動の用語の整理

学校における保健組織活動とは、児童生徒等の健康の保持増進に向けて保健管理と保健教育を有機的に関連付け、学校医・学校歯科医・学校薬剤師の協力の下、学校・家庭・地域社会の三者が互いに連携しながら活動することである¹⁶⁾。

多様化・複雑化している児童生徒の健康課題解決のためには、全教職員、保護者、地域が一体となって取り組む組織的活動が不可欠である。なお、組織とは「2人以上の人々の意識的に調整された活動や諸力の体系」と定義されており、組織が成立する三要素とは「共通の目的」「協働する意思」「コミュニケーション」である¹⁷⁾。児童生徒の健康課題解決のため、共通の認識を持ち、相互に連携しながら、組織として十分機能するよう努めなければならない。

前項でも述べたように。保健組織活動は保健教育・保健管理とともに、学校保健3領域の1つに位置づけられている。学校保健の領域の図を改めて見ると、保健組織活動は、保健管理および保健教育を支えるものとしてとらえることができる（図5参照）。

学校保健組織活動には、教育目標の達成に向けた全教職員が教育活動を推進するために必要

な役割として、①教職員の組織や協力体制の確立（役割の明確化）、②家庭との連携、③地域の関係機関団体との間連携及び学校間の連携、④学校保健委員会の開催がある¹⁸⁾。学校保健委員会は、1958年に学校保健法が公布されたことを機会に体育局通知1958年6月16日文体保第55号で実施すべきこととされており、1972・1997年の保健体育審議会答申¹⁹⁾ ²⁰⁾において学校保健委員会の重要性が示されている。学校保健委員会には、拡大された学校保健委員会として地域保健委員会校区保健委員会などがあり、必要に応じて開催されている。

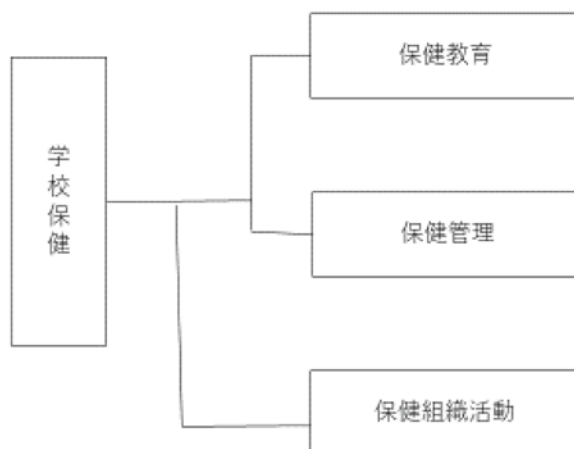


図5 学校保健の領域図

組織活動の推進に当たっては、共通の目的に向かって連携し計画的に推進することが望まれる。2015年の中央審議会答申「チームとしての学校の在り方と今後の方策について」²¹⁾では、「これからの学校が教育課程の「改善などを実現し、複雑化・多様化した課題を解決していくためには、学校組織としての在り方や学校の組織文化に基づく業務の在り方などを見直し、チームとしての学校を作り上げていくことが大切である」²²⁾ことが述べられている。養護教諭は、子供の現代的健康課題を解決するために、校長のリーダーシップの下、他の教職員等と連携・協働していかなければならない。

（２）保健組織活動（関係機関等との連携）の養成段階での指標と大学での学習目標

保健組織活動（関係機関等との連携）に関し、「札幌市教員育成指標【養護教諭編】」における養成段階の指標と大学での講義の目標とを並べると以下になる。なお、健康相談・保健指導に関わる組織的な対応について、「札幌市教員育成指標【養護教諭編】」では「健康相談・保健指導／生徒指導」という別の枠組みに含まれるため、本稿における大学での学習目標及び養護実習試案から除くこととした。

【養成段階】

学校・家庭・地域等の協力体制の重要性を理解し、保健管理・保健教育に活かそうとしている。

【大学での学習目標】

- ①学校の教職員の構成について理解する。
- ②校務分掌の法的根拠を理解する。
- ③学校三師の役割と連携について理解する。
- ④学校内および学校外の連携について説明できる。
- ⑤学校保健委員会について説明できる。
- ⑥組織的な学校保健活動の必要性を理解できる。
- ⑦学校保健組織活動の実際について説明できる。
- ⑧連携が必要な関係機関について理解し、関係する他職種の役割を理解する。

札幌市教員育成指標における養成段階と大学での講義の目標をつなぎ、養護実習における組織活動の機会を想定し、次のように考えた。

【養護実習試案】

- ①実習校の教職員の構成と校務分掌について理解する。
- ②学校三師との連携について例示して説明できる。
- ③他の教職員との連携について例示して説明できる。
- ④養護教諭の保護者への対応について理解する。
- ⑤児童の保健委員会運営について説明できる。
- ⑥学校保健委員会の活動を理解し、説明できる。
- ⑦実習校において連携している関係者や関係機関の役割を理解する。

6. おわりに

本稿において、養護教諭としてのスタートラインである【養成段階】の指標と、大学での養護教諭としての学びのスタートである【大学での学習目標】をつなぐような【養護実習試案】を検討し、所期の目的を果たすことができた。改めて学校保健三領域で用いられる用語を整理することで、養護教諭の職務および養護教諭として果たすべき役割を明らかにでき、【養護実習試案】の検討の充実を図ることができた。

今後は、学校保健の推進の観点とマネジメントを網羅した【養護実習試案】を完成させること、初期の【大学での学習目標】から段階的に【養護実習試案】までの学習目標を整理すること、さらには養護実習後から【養成段階】までの課題を明らかにすることを課題とする。

資料（養護実習試案）

	大学での学習目標	養護実習試案	札幌市教員育成指標
保健教育	①学習指導要領を理解した上で、発達段階に即した保健教育について考えることができる。	① 学習指導要領を理解した上で、実習校の児童の健康課題を踏まえ、発達段階に即した保健教育について考えることができる。	学習指導要領を理解し、養護教諭の専門性を生かした保健教育を実践しようとしている
	②保健などの教科の内容を踏まえ、養護教諭の職務の特性を生かした授業を構想し、学習指導案を作成できる。	② 教科等との関連を考え、特別活動における保健教育を実践することができる。	
	③児童生徒の実態に即した特別活動等における保健教育の学習指導案を作成できる。	③ 養護教諭の専門性を生かし、日常の保健教育を実践することができる。	
保健管理	① 保健管理の構造と内容を理解する。	① 保健管理の法的根拠を理解した上で、実習校の児童の健康課題を例示することができる。	学校保健安全法を理解し、子どもの実態把握の必要性を認識し、実践しようとしている。
	② 学校保健安全法を理解し、保健管理のプロセスを理解し、説明できる。		
	③ 健康課題把握のための学校保健情報の種類・意義・進め方を理解し、説明できる。		
	④ 健康観察の方法と進め方を理解し、説明できる。	② 健康観察の必要性を理解し、実習校において実践することができる。	
	⑤ 学校における救急処置活動のプロセスと進め方を説明できる。	③ 実習校の救急体制を理解し、児童の発達段階等に即した適切な応急手当ができる。	
	⑥ 救急体制の整備の必要性和課題を説明できる。		
	⑦ 健康診断の根拠および計画について理解する。	④ 実習校の健康診断の工夫と留意点を踏まえ、実践することができる。	
	⑧ 健康診断の実践の工夫と留意点について理解し、説明できる。		
	⑨ 健康診断の結果の活用について理解する。		
	⑩ 感染症対策に関する法的根拠を理解する。	⑤ 感染症予防の基本に従い、感染症予防と対応に努める。	
	⑪ 感染症予防の基本を理解する。		
	⑫ 学校環境衛生の意義を理解する。	⑥ 学校環境衛生の日常点検を実践することができる。	
	⑬ 学校環境衛生基準の法的根拠を理解する。		
	⑭ 学校環境衛生の日常的点検の内容および方法について理解し、説明できる。		
保健組織活動	① 学校の教職員の構成について理解する。	① 実習校の教職員の構成と校務分掌について理解する。	学校・家庭・地域等の協力体制の重要性を理解し、保健管理・保健教育に活かそうとしている。
	② 校務分掌の法的根拠を理解する。	② 学校三師との連携について例示して説明できる。	
	③ 学校三師の役割と連携について理解する。		
	④ 学校内および学校外の連携について説明できる。	③ 他の教職員との連携について例示して説明できる。	
		④ 養護教諭の保護者への対応について理解する。	
		⑤ 児童の保健委員会運営について説明できる。	
	⑤ 学校保健委員会について説明できる。	⑥ 学校保健委員会の活動を理解し、説明できる。	
	⑥ 組織的な学校保健活動の必要性を理解できる。	⑦ 実習校において連携している関係者や関係機関の役割を理解する。	
	⑦ 学校保健組織活動の実際について説明できる。		
⑧ 連携が必要な関係機関について理解し、関係する他職種の役割を理解する。			

〈文献〉

- 1) 文部科学省：教育基本法，2006， p.9
- 2) 前掲書 1)， p.6
- 3) 文部科学省：教育公務員特例法等の一部を改正する法律， 2016
- 4) 文部科学省：教師の資質能力向上に関する参考資料， 2018， p.25
- 5) 文部科学省：教育職員免許法施行規則， 2017
- 6) 同上
- 7) 三木とみ子（編代）：新訂 養護概説， ぎょうせい， 2018
- 8) 養護教諭の専門領域に関する用語の解説集〈第三版〉，日本養護教諭教育学会， 2019， p.30
- 9) 文部科学省：小学校学習指導要領解説【体育編】， 2017
- 10) 文部科学省：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策について（中央教育審議会 答申）， 2018
- 11) 前掲書 8)， p.26
- 12) 学校保健・安全実務研究会：新訂版 学校保健実務必携《第4次改訂版》， 2017
- 13) 日本学校保健会：保健主事の手引き（三訂版）， 2009， p.5
- 14) 前掲11)
- 15) 前掲書 7)， p.40
- 16) 前掲書 8)， p.32
- 17) 金井壽宏：経営学入門シリーズ「経営組織」， 18， 日本経済新聞出版社， 2012
- 18) 三木とみ子（編代）：新訂 養護概説， ぎょうせい， 2018， 207
- 19) 文部科学省：児童生徒等の健康の保持増進に関する施策について（保健体育審議会 答申）， 1972
- 20) 生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの振興の在り方について（保健体育審議会 答申）， 1997
- 21) 文部科学省：チームとしての学校の在り方と今後の方策について（中央教育審議会 答申）， 2015
- 22) 同上